

SNS等での投稿による 被害について



SNSは情報収集やコミュニケーションツールとして便利で楽しいものですが、利用に伴うリスクが存在します。例えば、インターネット上には「ネットストーカー」と呼ばれる、SNS等で知り合った相手に好意や恨みから執拗につきまってくる人がいます。SNS等での投稿により被害にあった事例を基に、個人情報漏えいの危険性について考えてみましょう。

A子さん(〇〇中学校女子生徒)の事例

Aさんは、SNSで、自分の投稿を見た人たちから寄せられるコメントやメッセージを楽しみにしていました。ある日、面識のない男性から「僕と友達になってください」というメッセージが届けられ、最初は興味本位で返信していましたが「顔写真を送って」「電話しよう」など、あまりにもしつこくメッセージが送られてくるため、そのうち返信するのをやめました。しかし、そのあとも男性から脅迫的なメッセージが次々と送られてきたり、「家はわかっているんだからな」というメッセージとともにAさんの自宅の写真も送られてきました。怖くなったAさんはアカウントを削除し、警察に相談しました。

【なぜ？自宅がわかったのか・・・】



Q. なぜ相手はAさんの自宅がわかってしまったのでしょうか。ある女の子が何気なく投稿した左の画像から考えてみましょう。



A. 左の画像からは以下の個人情報が特定できます

- ・本人の顔
- ・通っている学校（制服や学校の外観から）
- ・本人が使っている自転車
- ・通学手段

※生徒本人の自転車が特定できますので、実際にこの生徒が今学校にいるのかいないのかを調べ、学校にいるようであれば待ち伏せて下校時に後をつけられることで、自宅を特定される危険性があります。

指導の要点

単に個人情報を書いてはいけないと指導するのではなく、SNS上で個人情報を公開することの危険性を子どもたちに理解させましょう。「何が個人情報なのか」、「一枚の写真にも多くの個人情報が含まれている」ということを子どもたちに考えさせ、その上で、普段のSNSの利用方法に危険がないかを改めて確認する機会を設けるのも効果的です。